

# フランスガキ種苗生産

川村 要

今年度は、水槽当りの採苗数を高めることに目標をおいて試験を行なった。その結果昭和53年11月20日現在で約5万個(使用水槽3槽)の附着稚貝(殻長3cm)を採苗することが出来たのでその結果を報告する。

## 材料および方法

### (1) 母 貝

昭和51年度当センターで人工採苗によって得られた2年貝で、平内町土屋で養殖していたものを用いた。

### (2) 成 熟 促 進

4月17日に母貝50個体を容量100ℓのFRP水槽に収容、20℃の温海水をかけ流し生殖巣の成熟促進を図った。

### (3) 幼 生 放 出

5月中旬以降1日数回水槽内を観察し、幼生を放出している母貝があれば直ちにその個体を取り上げ開殻により幼生を取り出した。

### (4) 幼 生 飼 育

幼生の飼育には容量0.5トンのフルコンタイ水槽を用いた。飼育密度は1,000個/ℓ、2面と1,400個/ℓの3面で軽い通気を行った。飼育水の換水は幼生の様子により2~3日毎に全換水あるいは半換水を行なった。飼料は4,000万Cells/ccに増殖したものを給餌した。

### (5) 採 苗

幼生の殻長が300μより若干大きくなった頃に採苗器を投入した。

採苗器はカキ殻(2m/m~5m/m程度に砕いたもの)をパールネット(1分目)に敷き詰め2枚を1連として1水槽当り12枚のネットを垂下した。幼生が附着し終わった時そのままの状態ですぐ水槽から取り上げセンター前の筏に垂下した。

## 結 果

### (1) 幼 生 放 出

今年度は4月17日から加温処理を行ない最初の幼生放出が観察されたのは5月20日で2回目は5月24日であった。この間に幼生放出した母貝は3個体で幼生総数279万個であった。

## (2) 幼 生 飼 育

幼生の飼育は20℃で行なった。飼育状況は第1表に示した。

今年は幼生飼育から付着開始までの日数は3水槽とも15日を要している。

第1表 幼生の飼育状況

No.	幼 生 放 出 月 日	飼育開始時		付 着 時			付 着 開 始 月 日	付 着 ま だ の 日 数 (日)	取 上 げ 連 数 (連)	餌 料 (G.W) (ℓ/日)
		水槽当り の幼生数 (万個)	幼 殻 長 (10ヶ平均) ( $\mu$ )	水槽当り の幼生数 (万個)	幼 殻 長 (10ヶ平均) ( $\mu$ )	歩 留 (%)				
1	5. 20	50	172	35	319	70	6. 5	15	パール ネット 12枚	2
2	5. 20	50	172	30	324	60	6. 5	15	〃	2
3	5. 24	70	171	32	332	64	6. 9	15	〃	2

採苗器投入時の歩留りは60%~70%となっている。

餌料は各水槽1日2ℓ宛給餌した

## 考 察

第1表に示したように付着直前の浮遊幼生数は97万個であるが、11月20日稚貝を採取した段階で5万個(平均殻長4.4cm)であり、この間の歩留りは5.1%となっており付着時または沖出し後にかなり歩減りしたものと考えられる。

今年度は水槽当りの採苗数を高めることを目標に試験を行なったが、52年度は水槽当り2.5万個であったのと較べ今年度は1.7万個とやや悪い結果に終わった。